

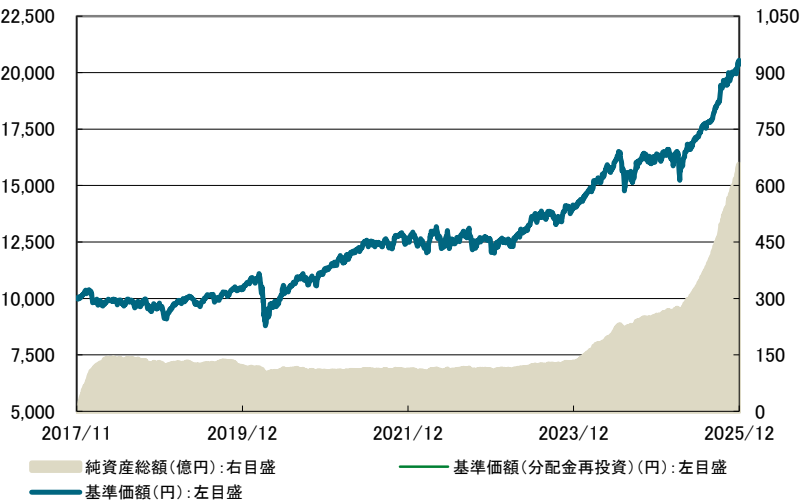
グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 ： 2017年11月30日

作成基準日 ： 2025年12月30日

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	20,359 円	+ 326 円
純資産総額	650.78 億円	+ 57.78 億円

期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	1.63%
3ヵ月	8.58%
6ヵ月	18.55%
1年	24.67%
3年	67.78%
設定来	103.59%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2023年8月	2024年8月	2025年8月
分配金	0 円	0 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

●当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

●ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

●投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

●投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。

●当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。

●当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2017年11月30日
作成基準日：2025年12月30日



マザーファンドの月間騰落率

マザーファンド	騰落率
国内株式インデックス マザーファンド	1.03%
外国株式インデックス マザーファンド	2.02%
新興国株式インデックス マザーファンド	2.45%
国内債券インデックス マザーファンド	-1.23%
外国債券インデックス マザーファンド	0.47%
新興国債券インデックス マザーファンド	1.24%
J-REITインデックス マザーファンド	0.01%
グローバルREITインデックス マザーファンド	-0.59%
ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)	3.80%

ファンドの運用状況

当月は、金や株式を中心に多くの資産が堅調に推移したことから、基準価額は上昇しました。

株式は、各国でプラスに寄与しました。米国の利下げ期待を背景に世界的に株高となる中、日本では利上げを受けた銀行株高が相場のけん引役となり、海外では生成AI(人工知能)向けメモリー需要の逼迫を背景に関連企業の上昇が目立ちました。
債券は、日本はマイナスに影響しましたが、先進国と新興国はプラスに寄与しました。日本では、財政運営への懸念が強まったことや日銀の利上げを受け、利回りは上昇(価格は下落)しました。先進国と新興国は、インカム収益を着実に積み上げたことに加え、投資対象通貨が円に対して上昇しました。
REITは、国内が概ね横ばいになった一方で、米国の長期金利上昇が嫌気され、先進国REITは下落しました。
金は、月後半に調整する場面もありましたが、世界的な買い需要などにより月中に過去最高値を記録し、月間でも上昇しました。

今後の運営方針としては、金の比率を多めに設定したポートフォリオを継続します。地域別のGDP(国内総生産)総額の比率や市場環境の変化等に応じて決定した基本組入比率に則り、世界の株式、債券、REIT、金への分散投資を行い、中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行っていきます。

マザーファンドの状況

マザーファンド	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
国内株式インデックス マザーファンド	3.49%	3.50%	-0.01%	7 円
外国株式インデックス マザーファンド	19.33%	19.25%	0.08%	79 円
新興国株式インデックス マザーファンド	12.40%	12.25%	0.15%	60 円
国内債券インデックス マザーファンド	2.48%	3.50%	-1.02%	- 6 円
外国債券インデックス マザーファンド	19.39%	19.25%	0.14%	18 円
新興国債券インデックス マザーファンド	12.28%	12.25%	0.03%	31 円
J-REITインデックス マザーファンド	5.01%	5.00%	0.01%	0 円
グローバルREITインデックス マザーファンド	5.05%	5.00%	0.05%	- 6 円
ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)	19.74%	20.00%	-0.26%	150 円
その他	0.83%	-	-	- 8 円
合計	100.00%	100.00%	-	326 円

※ 対純資産総額比です。
※ 各マザーファンドのベンチマークについては、13ページをご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

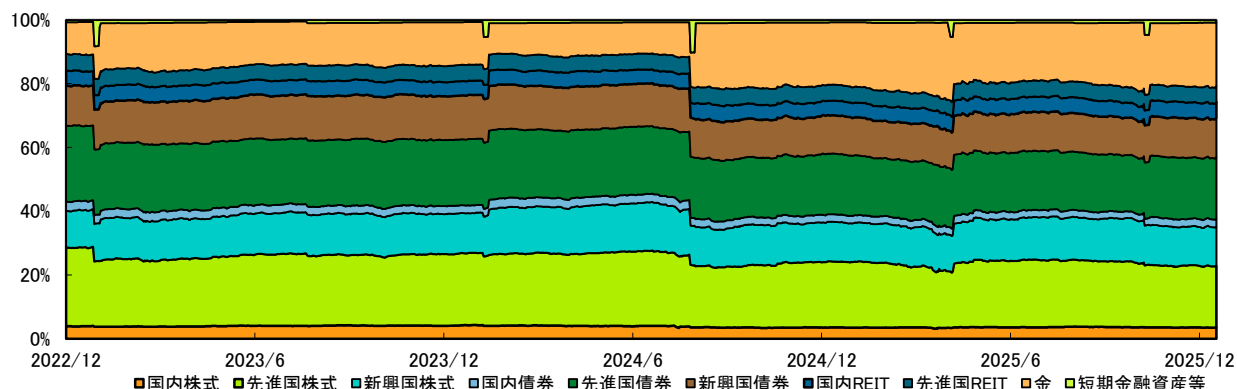
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2017年11月30日

作成基準日：2025年12月30日

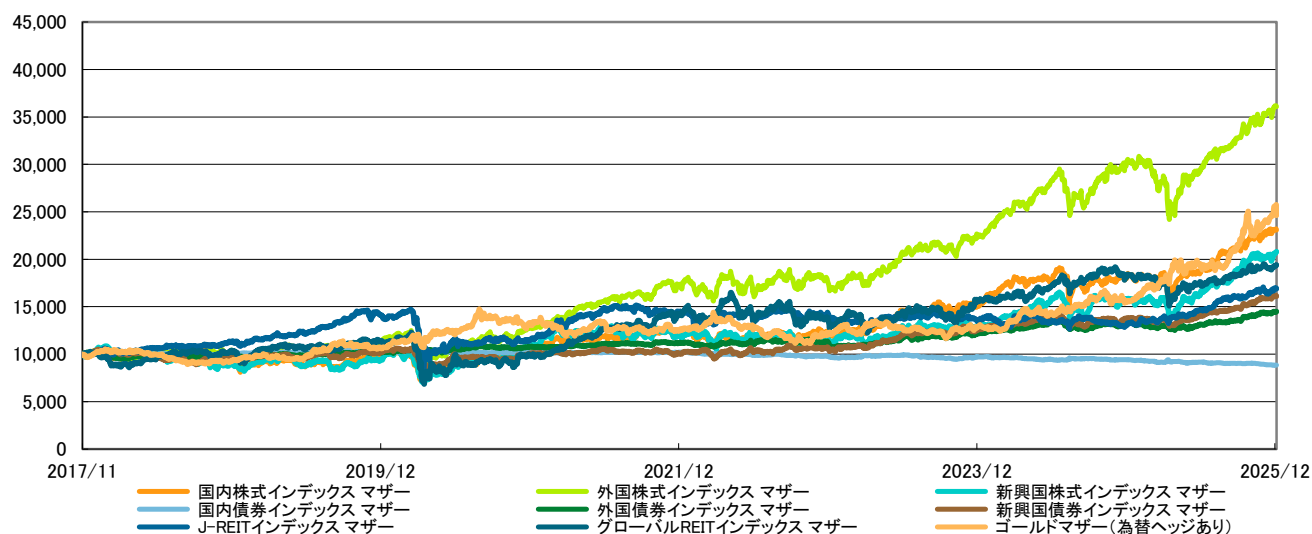


資産別組入比率の推移



※ 上記グラフは過去3年間の数値を使用して作成しています。

マザーファンドの基準価額の推移



※ 当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	47.34%
2	日本	11.81%
3	中国	4.85%
4	インド	3.12%
5	台湾	2.50%
6	英国	2.15%
7	ケイマン島	2.06%
8	フランス	2.05%
9	韓国	1.68%
10	メキシコ	1.62%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	47.61%
2	日本円	11.81%
3	ユーロ	7.81%
4	オフショア人民元	4.00%
5	インド・ルピー	3.12%
6	香港ドル	2.93%
7	台湾ドル	2.54%
8	英国ポンド	2.10%
9	韓国ウォン	1.68%
10	メキシコ・ペソ	1.62%

※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日



国内株式インデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

株式	98.84%
株式先物取引	1.10%
短期金融資産等	0.06%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	18.40%	18.39%
2	銀行業	10.15%	10.14%
3	卸売業	7.73%	7.72%
4	情報・通信業	7.12%	7.16%
5	輸送用機器	6.98%	6.97%
6	機械	5.88%	5.90%
7	化学	4.50%	4.49%
8	小売業	4.47%	4.46%
9	医薬品	3.75%	3.74%
10	サービス業	3.71%	3.71%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.66%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.18%
3	ソニーグループ	電気機器	2.84%
4	日立製作所	電気機器	2.58%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.24%
6	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.73%
7	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.63%
8	三菱商事	卸売業	1.55%
9	三菱重工業	機械	1.49%
10	東京エレクトロン	電気機器	1.49%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,645

市場動向

国内株式市場は上昇しました。月前半は、植田日銀総裁の発言により12月の追加利上げ観測が高まり、東証33業種分類の銀行業は26年ぶりの高水準となりました。月半ばには、FRB(米連邦準備理事会)の利下げが米景気を支えるとの期待から、S&P500指数やNYダウが最高値をつけた流れを受けて、TOPIXも過去最高値を更新しました。月後半は、米オラクルの株価が大幅安となったことからハイテク関連株の売りが目立ったものの、金融株などが買われ上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日

外国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

資産内容

株式	98.14%
株式先物取引	1.88%
短期金融資産等	-0.01%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	76.61%	76.13%
2	英国	3.85%	3.87%
3	カナダ	3.61%	3.61%
4	フランス	2.73%	2.78%
5	ドイツ	2.51%	2.53%
6	スイス	2.50%	2.50%
7	オーストラリア	1.67%	1.66%
8	オランダ	1.24%	1.29%
9	スペイン	1.01%	1.02%
10	イタリア	0.85%	0.86%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	半導体・半導体製造装置	11.36%	11.35%
2	ソフトウェア・サービス	9.57%	9.55%
3	メディア・娯楽	7.75%	7.78%
4	資本財	7.64%	7.67%
5	金融サービス	7.08%	7.07%
6	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.02%	7.00%
7	銀行	6.99%	7.02%
8	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6.79%	6.77%
9	一般消費財・サービス流通・小売り	4.77%	4.79%
10	エネルギー	3.44%	3.47%

※ 対現物株式構成比です。

※ 業種はGICS分類(産業グループ)によるものです。GICSに関する知的所有権等はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	NVIDIA CORP	米国	5.69%
2	APPLE INC	米国	5.05%
3	MICROSOFT CORP	米国	4.28%
4	AMAZON.COM	米国	2.77%
5	ALPHABET INC-CL A	米国	2.27%
6	BROADCOM INC	米国	1.95%
7	ALPHABET INC-CL C	米国	1.91%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.77%
9	TESLA INC	米国	1.62%
10	JPMORGAN CHASE & CO	米国	1.11%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,140

市場動向

米国株式市場はほぼ横ばいとなりました。月前半は、FRB(米連邦準備理事会)の利下げ観測が強まったことで、一時大型ハイテク株が買われたものの、AI(人工知能)関連投資への懸念が高まり下落しました。月後半は、11月のCPI(消費者物価指数)が市場予想を大幅に下回り、インフレの鈍化が確認された一方、7-9月期のGDP(国内総生産)成長率が市場予想を大幅に上回ったことからS&P500指数は一時過去最高値を更新しました。月末にかけて利益確定の売りが出て、月間ではほぼ横ばいとなりました。

欧州株式市場は上昇しました。月前半は、米国の利下げに加え、26年の追加利下げ観測の高まりなどが好感され上昇しました。月後半は、BOE(英中央銀行)が利下げを決めたことや、26年以降の欧州の経済成長率見通しが引き上げられたことなどが好感され上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日



新興国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

資産内容

株式	96.91%
株式先物取引	3.24%
短期金融資産等	-0.15%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	台湾	19.55%
2	ケイマン島	16.11%
3	インド	14.85%
4	韓国	13.03%
5	中国	10.44%
6	ブラジル	3.45%
7	南アフリカ	3.16%
8	サウジアラビア	2.78%
9	メキシコ	1.91%
10	アラブ首長国連邦	1.45%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	香港ドル	21.79%
2	台湾ドル	19.84%
3	インド・ルピー	14.85%
4	韓国ウォン	13.03%
5	オフショア人民元	3.76%
6	南アフリカ・ランド	3.67%
7	ブラジル・レアル	3.45%
8	サウジアラビア・リヤル	2.78%
9	米国ドル	2.28%
10	メキシコ・ペソ	1.91%

※ 対純資産総額比です。
※ マザーファンドを通じ、新興国の企業が米ドル建て等で発行する証券（預託証券（DR））にも投資します。したがって、通貨構成比は国・地域別構成比と異なることがあります。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	銀行	16.64%	16.63%
2	半導体・半導体製造装置	16.33%	16.34%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	9.94%	9.97%
4	素材	7.05%	7.10%
5	メディア・娯楽	6.75%	6.85%
6	一般消費財・サービス流通・小売り	5.63%	5.67%
7	資本財	5.43%	5.32%
8	エネルギー	3.86%	3.85%
9	自動車・自動車部品	3.28%	3.27%
10	保険	2.97%	2.95%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	台湾	11.37%
2	TENCENT HOLDINGS LTD	ケイマン島	4.65%
3	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	3.74%
4	ALIBABA GROUP HOLDING LTD	ケイマン島	2.99%
5	SK HYNIX INC	韓国	2.33%
6	HDFC BANK LTD	インド	1.19%
7	RELIANCE INDUSTRIES LTD	インド	1.01%
8	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	中国	0.89%
9	HON HAI PRECISION INDUSTRY	台湾	0.88%
10	XIAOMI CORP-CLASS B	ケイマン島	0.81%

※ 対純資産総額比です。 組入銘柄数 : 1,067

市場動向

香港株式市場の中国株は下落しました。月前半は、中国の主要経済指標が市場予想を下回るなど、先行き懸念から投資家心理が悪化し、金融株が下落しました。月後半は、AI(人工知能)関連株が買われ反発する場面もありましたが、米ハイテク株安を受けて割高感を意識した売りが優勢となりました。

インド株式市場は小幅に下落しました。月前半は、11月末に発表された7-9月期GDP(国内総生産)成長率が市場予想を上回ったものの、インド・ルピーの下落を嫌気して利益確定の売りが優勢となり下落しました。月後半は、ニュージーランドとのFTA(自由貿易協定)締結や政府による鉄鋼輸入関税などの貿易保護措置を好感して買いが優勢となりました。

台湾株式市場は上昇しました。月前半は、米国の追加利下げ期待からハイテク株を中心に上昇しました。月後半は、米国株の大幅上昇を受けて、半導体やAI関連銘柄への買いが強まり、上昇しました。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日



国内債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	100.12%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	-0.12%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
残存年数	10.51 年	10.52 年
修正デュレーション	8.04	8.02
最終利回り	1.93 %	1.94 %
銘柄数	1,131	-

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度(変動率)を表しており、この値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

種類別構成比

種類	ファンド	ベンチマーク
国債	85.04%	84.89%
地方債	5.87%	5.90%
政府保証債	1.26%	1.25%
金融債	0.28%	0.29%
事業債	6.15%	6.21%
円建外債	0.31%	0.32%
MBS	1.08%	1.09%
ABS	0.01%	0.05%

※ 対現物債券構成比です。

残存期間別構成比

残存年数	ファンド	ベンチマーク
1年未満	0.00%	0.00%
1年以上3年未満	22.12%	22.40%
3年以上7年未満	30.08%	29.80%
7年以上10年未満	17.25%	16.88%
10年以上	30.55%	30.92%

※ 対現物債券構成比です。

市場動向

国内債券市場では、10年国債利回りが2.060%に上昇(価格は下落)しました。日銀が政策金利を30年ぶりの水準となる0.75%に引き上げたことや、円安の進行でインフレ予想が高まるなか、日銀が今後も利上げに意欲的との見方が強まったことが金利上昇要因となりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日

外国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	98.77%
債券先物取引	0.94%
短期金融資産等	0.29%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	2.86 %	-
最終利回り	3.33 %	3.37 %
残存年数	8.89 年	8.81 年
修正デュレーション	6.19	6.18
銘柄数	921	-

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	45.68%	45.73%
2	中国	11.79%	11.81%
3	フランス	7.25%	7.23%
4	イタリア	6.86%	6.84%
5	英国	5.89%	5.87%
6	ドイツ	5.78%	5.77%
7	スペイン	4.35%	4.33%
8	カナダ	2.05%	2.05%
9	ベルギー	1.52%	1.52%
10	オランダ	1.27%	1.27%

※ 対現物債券構成比です。

組入上位10通貨

	通貨	ファンド	ベンチマーク
1	米国ドル	45.68%	45.73%
2	ユーロ	29.64%	29.56%
3	オフショア人民元	11.79%	11.81%
4	英国ポンド	5.89%	5.87%
5	カナダ・ドル	2.05%	2.05%
6	オーストラリア・ドル	1.23%	1.23%
7	メキシコ・ペソ	0.87%	0.87%
8	ポーランド・ズロチ	0.71%	0.71%
9	マレーシア・リンギット	0.53%	0.53%
10	イスラエル・シェケル	0.40%	0.40%

※ 対現物債券構成比です。
※ ベンチマークは中国・元の構成比になります。

市場動向

米国10年国債利回りは、4.167%に上昇(価格は下落)しました。月前半は、失業保険申請件数や人員削減の減少などが相次ぎ、利回りが上昇しました。FRB(米連邦準備理事会)が3会合連続で利下げを決めたことや、バランスシートの再拡大を決めたことが金利上昇圧力を弱める結果となり、月後半は4.1%台で一進一退の展開となりました。

ドイツ10年国債利回りは、2.855%に上昇しました。シュナーベルECB(欧州中央銀行)専務理事が将来的な利上げに言及したことなどが、長期金利の上昇につながりました。

米ドル/円相場は、前月末からほぼ横ばいとなりました。月前半は、植田日銀総裁の講演内容を受け利上げ観測が高まったことや、米雇用関連指標が労働市場の減速を示したことなどを背景に、円高・米ドル安となりました。月後半は、日銀が0.25%の利上げを決定したものの、今後の利上げペースについては慎重と受け止められたことから、一時157円台まで円安・米ドル高が進みました。月末には片山財務相による円安けん制発言があったことから、円に買い戻しが入る場面がありました。

ユーロ/円相場は、円安・ユーロ高が進行しました。ユーロは一時184円92銭まで上昇し、最高値を更新しました。月前半は、植田日銀総裁の講演内容から日銀の利上げ観測が高まり、一時円高・ユーロ安となりましたが、その後は、日本の財政懸念がくすぶるなか、円が売られる展開が続きました。月後半は、利上げ後の日銀総裁会見を受けて今後の利上げに慎重との見方が強まり、一時円安・ユーロ高が進みましたが、その後は横ばいで推移しました。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日



新興国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

特性値

債券	98.71%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	1.29%
合 計	100.00%

直接利回り	5.56 %
最終利回り	6.20 %
残存年数	7.71 年
修正デュレーション	5.30
銘柄数	368

※ 対純資産総額比です。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

組入上位10通貨

	国・地域	比率
1	中国	9.90%
2	インドネシア	9.87%
3	マレーシア	9.83%
4	インド	9.80%
5	メキシコ	9.70%
6	タイ	8.20%
7	ポーランド	8.11%
8	南アフリカ	7.23%
9	ブラジル	7.19%
10	チェコ	4.50%

	通貨	比率
1	オフショア人民元	9.90%
2	インドネシア・ルピア	9.87%
3	マレーシア・リンギット	9.83%
4	インド・ルピー	9.80%
5	メキシコ・ペソ	9.70%
6	タイ・バーツ	8.20%
7	ポーランド・ズロチ	8.11%
8	南アフリカ・ランド	7.23%
9	ブラジル・レアル	7.19%
10	チェコ・コルナ	4.50%

※ 対純資産総額比です。

※ 対純資産総額比です。

市場動向

新興国通貨は対円でまちまちな展開となりました。タイでは中央銀行が政策金利を0.25%引き下げて1.25%にすることを決めましたが、タイ・バーツは堅調地合いが継続して対円で上昇しました。一方、7-9月期GDP(国内総生産)成長率が市場予想を下回ったブラジルでは、ブラジル・レアルが対円で下落しました。
新興国債券利回りはまちまちな展開となりました。メキシコでは中央銀行の利下げ後の会見を受けて、26年前半にも金融緩和の停止を判断するとの見方が台頭し、長期金利が上昇しました。トルコではインフレ鎮静化の動きから中央銀行が4会合連続の利下げを決めたため、長期金利は低下しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日



J-REITインデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

J-REIT	97.77%
J-REIT先物取引	2.21%
短期金融資産等	0.02%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

予想配当利回り	4.47%
銘柄数	58

※ 予想配当利回り(税引前)は、各種情報を基に組入銘柄の予想配当利回りを加重平均して算出した値(対純資産総額比)です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

用途別組入状況

	用途	比率
1	商業・物流等	49.55%
2	オフィス	37.97%
3	住宅	12.49%

※ 対現物REIT構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	用途	比率
1	日本ビルファンド投資法人	オフィス	7.06%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	オフィス	5.60%
3	日本都市ファンド投資法人	商業・物流等	5.36%
4	野村不動産マスターファンド投資法人	商業・物流等	4.59%
5	KDX不動産投資法人	オフィス	4.27%
6	GLP投資法人	商業・物流等	4.08%
7	日本プロロジスリート投資法人	商業・物流等	3.98%
8	大和ハウスリート投資法人	商業・物流等	3.75%
9	オリックス不動産投資法人	オフィス	3.53%
10	ユナイテッド・アーバン投資法人	商業・物流等	3.51%

※ 対純資産総額比です。

市場動向

J-REIT市場は下落しました。
月前半は、金融経済懇談会での植田日銀総裁の発言を受け、12月の日銀金融政策決定会合での追加利上げ観測が高まったことから売りが優勢となりましたが、下落局面ではJ-REITの収益の安定性や高い配当利回りを選好する資金流入が見られたことなどから下落幅を縮小しました。月後半は、日銀が追加利上げを決定したことを受けて長期金利は上昇し、2.0%を上回って推移したものの、利上げは概ね織り込み済みだったことであく抜けの動きとなり、月末にかけてさらに値を戻す展開となりました。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年12月30日



グローバルREITインデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

グローバルREIT	98.86%
グローバルREIT先物取引	0.62%
短期金融資産等	0.53%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	76.51%
2	オーストラリア	7.82%
3	英国	4.16%
4	シンガポール	3.49%
5	フランス	2.25%
6	カナダ	1.25%
7	ベルギー	1.20%
8	香港	0.90%
9	スペイン	0.52%
10	韓国	0.21%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	76.60%
2	オーストラリア・ドル	7.82%
3	ユーロ	4.25%
4	英国ポンド	4.16%
5	シンガポール・ドル	3.35%
6	カナダ・ドル	1.25%
7	香港ドル	0.90%
8	韓国ウォン	0.21%
9	イスラエル・シェケル	0.20%
10	ニュージーランド・ドル	0.12%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	WELLTOWER INC	米国	8.41%
2	PROLOGIS INC	米国	7.71%
3	EQUINIX INC	米国	4.85%
4	SIMON PROPERTY GROUP	米国	3.97%
5	REALTY INCOME CORP	米国	3.37%
6	DIGITAL REALTY TRUST INC	米国	3.24%
7	GOODMAN GROUP	オーストラリア	2.77%
8	PUBLIC STORAGE	米国	2.64%
9	VENTAS INC	米国	2.42%
10	VICI PROPERTIES INC	米国	1.95%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 288

市場動向

海外(先進国)のREIT市場は、まちまちな展開となりました。

米国REIT市場は下落しました。月前半から中旬にかけては、新規失業保険申請件数が市場予想を下回り、長期金利が上昇したことが嫌気され、下落しました。月後半は、11月のCPI(消費者物価指数)の下振れなどを背景に、26年の金融緩和期待が高まったことで下げ止まりました。

欧州REIT市場は上昇しました。月前半は、ECB(欧州中央銀行)の利下げサイクル終了が意識され下落しました。一方、月後半は、BOE(英中央銀行)が利下げを決めたことや、ECBによる経済見通しの上方修正を受けて、持ち直し、月間では小幅に上昇しました。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2025年12月30日



ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)の資産の状況

資産内容

上場投資信託	99.94%
短期金融資産等	0.06%
合 計	100.00%

為替ヘッジ比率	99.61 %
---------	---------

発行体	通貨	比率
SPDR GOLD MINISHARES TRUST	米国ドル	57.84%
ISHARES GOLD TRUST MICRO	米国ドル	42.09%
-	-	-
-	-	-
-	-	-
合 計	-	99.94%

※ 対純資産総額比です。

市場動向

米ドル建てLBMA金価格は上昇しました。月前半は、FOMC(米連邦公開市場委員会)において利下げが決定されたことや、バランスシートの再拡大が決定されたことを受けて、金価格は上昇しました。月後半は、11月のCPI(消費者物価指数)上昇率が市場の想定を下回ったことで米国債利回りが低下したことや、米国とベネズエラを巡る地政学リスクが意識され、安全資産である金への投資需要が高まったことで、金価格は大きく上昇しましたが、月末には利益確定の売りが広がったことから、金価格は上昇幅を縮小しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

作成基準日 : 2025年12月30日

※ 各マザーファンドのベンチマークは、以下の通りです。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年12月30日



ファンドの特色

1. 世界の幅広い資産に分散投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
2. 世界経済全体の発展を享受します。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、「ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)」における外貨建資産については、原則として為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【商品(コモディティ)の価格変動リスク】

商品の価格は、需給関係や為替、金利変動等の様々な要因により大きく変動します。需給関係は、天候、作況、生産国(産出国)の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を大きく受けます。商品価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【リート(不動産)の価格変動リスク】

リーートの価格は、不動産市況(不動産稼働率、賃貸料、不動産価格等)、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制等の変更、災害等の要因により変動します。また、リート及びリーートの運用会社の業績、財務状況の変化等により価格が変動し、基準価額の変動要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【有価証券の貸付等に係るリスク】

有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産などにより決済が不履行となるリスクがあります。貸付契約が不履行となった場合、担保金による有価証券の買戻しの際、時価変動の影響から損失を被り、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年12月30日



投資リスク

《その他の留意点》

- ファンドは中長期的な成長を目指して、市場環境等の変化や見通しに応じた運用を行うため、委託会社の判断で投資対象とする資産の投資割合を変更します。この投資割合の変更が、ファンドの収益の増加に寄与する場合がありますが、収益の減少や損失の発生要因となる場合があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2025年12月30日

お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金 … 申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。
- 申込受付不可日
- ニューヨーク証券取引所の休業日
 - ロンドン証券取引所の休業日
 - ニューヨークの銀行休業日
 - ロンドンの銀行休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、投資対象国における非常事態による市場閉鎖、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
- 信託期間 … 無期限(2017年11月30日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。
- ・受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合
 - ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
 - ・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年8月20日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。
ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.1%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

純資産総額に対して**年率0.605%(税抜0.55%)**を乗じて得た額

(有価証券の貸付の指図を行った場合)

ファンドの品賃料及びマザーファンドの品賃料のうちファンドに属するとみなした額に**50%未満の率[※]**を乗じて得た額

※ 2025年11月20日現在、合計で49.5%(税抜45%)以内とし、その配分は委託会社29.7%(税抜27%)、受託会社19.8%(税抜18%)です。(品賃料はファンドの収益として計上され、その一部を委託会社と受託会社が信託報酬として受け取るものです。)

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、マザーファンドの解約に伴う信託財産留保額等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

また、上場投資信託証券は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託証券の費用は表示しておりません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。




グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2017年11月30日
作成基準日：2025年12月30日

委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社（ファンドの運用の指図を行う者）
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第347号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
ホームページ：https://www.smtam.jp/
フリーダイヤル：0120-668001 受付時間 9:00～17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社（ファンドの財産の保管及び管理を行う者）



SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報（基準価額、レポート）や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。
※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

販売会社

商号等		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）※	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）※	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

- ※ ネット専用のお取り扱いとなります。
- ・ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
 - ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。